

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	平成 21年 10月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位でしたいことをしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で静かであつたりと過ごせる。ホームの前にはアパートがあり、子供達も多く遊びに来たり、行事参加をしてくれ、触れ合う機会があり喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後6年を経過しているが、ホーム内に笑い声が絶えないことが利用者の健康維持に良い影響を与えているのか、利用者の介護度の推移はゆっくりしている。利用者の半数が開設時から職員と共に生活しており、職員が利用者の生活を上手く支えるよう努め、顔色や目配りでもその状態が双方に伝わるような雰囲気がある。利用者と職員の良好な関係は新しい利用者にも安心感を与えており、最近入居した利用者もすでに馴染んでホームの一員としてゆっくりとした生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)

氏名 川中小由里

評価完了日 平成21年 10月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念『笑顔ある生活』を職員全員で話し合っ て決めた。また、具体的にどうすれば良いのかという指針を皆が見えるところに掲げて職員間で気を付け、反省しながら理念に近づけるように日々取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者がホームの生活だけでなく地域の中 でも笑顔で生活することが重要と考え、開 設当初から、理念の一つに「笑顔ある生 活」を掲げており、地域との交流は年々 深まっている。管理者と職員は理念を共 有して実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし 続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の方への挨拶や声かけを行って いる。兎を見に来るなどして子供達 との交流もある。また、輪抜け・お 祭り・文化祭等の行事に参加したり、 保育園からの来訪も定期的に受けて いる。</p> <p>(外部評価) ホームの開設以降、近隣住民には欠 かさず挨拶を行っており、地域の行 事にはお誘いがある。また、同法人 が経営している道路を挟んだアパ ートの住民とは、ホームを気軽に訪 ねてもらえる関係もできている。た だ、現在のところ職員の主導的な関 わりが大きく、利用者自身が地域 住民の一員としてのつきあいができ ていないとまでは言えない。</p>	利用者が地域住民として近隣者とのつな がりをさらに深めるためには、全職 員で利用者と地域の双方に目を向 け、普段着でのつきあいとは何かを 検討することが必要であるため、そ れを支援する時間や手間を十分確保 するためにも管理者を専任でおくこ とについて検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて いる認知症の人の理解や支援の 方法を、地域の人々に向けて活 かしている	<p>(自己評価) 地域との交流やボランティアの受け 入れなどを通じ、認知症の人への理 解を深めてもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 概ね2ヶ月に一回の運営推進会議を実施している。利 用者の方たちと一緒に行事に参加してもらったり、外 部評価や、その後の取組についての報告も行ってい る。運営推進会議で得た意見をその後の活動の参考に している。	
			(外部評価) 地域に開かれたホームになるため、運営推進会議を きっかけづくりの場として丁寧に運営している。参加 する委員の都合や議事内容を管理者やユニット長が十 分に吟味し、有意義な時間となるように努力している が、形式に囚われ過ぎている感がある。	運営推進会議の中にお茶会の時間を導入したり、利用 者との交流を企画するなど、少しずつ肩の力が抜けて きている。会議に参加する委員とも良好な関係が構築 できていることから、今後はホームでの催し物の準備 の相談や、委員と一緒に協働する議題、利用者と共に 楽しむ時間等も企画することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 年二回相談員の方に来訪してもらっている。運営推進 会議や電話等を通じて、実情の報告を行い、意見を 得るなどして協力関係を築けるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者には業務報告や相談等を行っており、管理者 も勤務が長いので、行政関係者との関わりも深い。利 用者へのケアの質の向上のためには、ホーム同士の連 携・協力関係を構築することが必要であると考えてい る。	近隣のホームとは、運営推進会議に出席を求めるな ど、良好な協力関係が築かれている。これをさらに堅 固にしたり、他のホームと連携を深めるため、行政等 にまとめ役として積極的に関わってもらいたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で話し合いながら、身体拘束をしないよう取り 組んでいる。玄関には開いたら音が出るような工夫を している。	
			(外部評価) 身体拘束の行為について、介護保険に示されている内 容の確認を全職員で行い、その精神的影響についても 共有している。利用者が不穏状況になっても、職員が 寄り添うことで落ち着きを取り戻すケアに取り組んで いる。玄関以外にも勝手口、リビングの掃出窓など、 外出できる場所が沢山あるが、夜間以外はどこも施錠 されていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、またその報告を職員間で行うことによって虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。入浴時には外見の観察を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、またその報告を職員間で行うことによって権利擁護に関する制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解や納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に苦情相談の窓口を明記し、口頭での説明も行っている。意見を受けた場合には速やかな対応に努めている。面会に来られた時に意見が言いやすい雰囲気作りに努め、近況報告とともに意見を求めている。	
			(外部評価) 意見箱の設置や家族会の開催等、来訪時以外でも家族が意見を出しやすいよう工夫している。職員は、家族が気軽に意見を話しやすい雰囲気となるよう、明るい対応を心がけている。家族との付き合いも長くなっているため、意見等が余り出ない状態にあり、さらに家族からの意見を聞き取るために新たな取り組みが必要な時期に来ている。	家族にも行事の時などに役割をお願いして来訪時とは異なる時間を確保し、その際の何気ない話の中から意見等を引き出すような工夫を期待したい。また、職員が聞き得た情報を家族と共有するための話し合い等を行うことにより、本人への理解と家族との連携を深める工夫等についても期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 会議で意見を聞いたり、時間が空いたときに個別に対応している。  (外部評価) 管理者やユニット長もシフトに入っているため、職員とは業務を通して話し合う時間が長く、会議以外でも意見や提案を話し合う場がある。管理者と職員が利用者のケアについて共に考えるという関係が構築できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加を推進し、援助している。また、資格の取得を推進することによってトレーニングの機会を増やしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や他施設での行事に参加して同業者との交流を図っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) よく関わりを持ち、色々な話を聞くようにしている。そして、安心して過ごしてもらえるよう、信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用が必要になった状況を把握し、家族の要望に応えられるように努めている。また、要望等を遠慮なく伝えてもらえるような信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用が必要になっている現在の状況について本人と家族の話をよく聞き、必要としている支援を見極めた上で、その対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれに『出来ること』をしてもらって、それに対する感謝を伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 現状を報告し、家族の意見を聞き入れ、支援に生かしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービス利用以前の状況を理解し、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。  (外部評価) 近隣に居住していた利用者が多いため、家族だけでなく近所の友人・知人の来訪も多い。職員も地元出身者が多いため、利用者との共通の話題や昔話に花が咲いている。在宅からホームへと生活の場が変わっても、利用者の関係継続を自然に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、より良い関わり合いが保てるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も相談等があれば、それに応じている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、各人の意志を尊重した支援を行っている。  (外部評価) 職員は利用者との日常の会話から思いを汲み取るため、特に一対一で行う入浴ケアや散歩時等に積極的に会話している。また、その情報を日々のケアに生かすために職員間で検討している。しかし、聞き得た情報を記録化する取り組みが十分とは言えず、また職員間での話し合いもシステム化されたいないため、全職員が共有しているとまでは言えない。	利用者の生活歴やちょっとした嗜好などはホームの貴重な財産であり、利用者へのサービスの質の向上に不可欠なものであるため、書き足して蓄積していくことができるよう、統一の記録用紙を整え、記録した情報が何年経っても確認できるよう工夫することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族に聞き取りを行うことでこれまでの生活歴等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル確認を毎日行っている。また、これまでの生活歴と、毎日色々な活動に参加してもらうことで現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画に関して、本人・家族・必要な関係者に意見を求めている。一ヶ月に一回職員間で話し合い、現状に則した介護計画の作成に努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画の見直し・継続については毎月の会議で話し合っている。利用者それぞれに担当職員を決め、ケア会議で利用者の介護目標の振り返りを行っている。モニタリングには介護記録を用いているが、記録の内容が必ずしも介護計画に繋がる記述となっていないため、担当者の主観がやや強くなる傾向がある。</p>	介護記録は、職員間で介護目標を絶えず意識するために、介護計画を意識した記載となるよう検討することが望まれる。また、介護目標を数値化することで、利用者や職員が達成感を感じることができ、モチベーションの維持にも役立つと思われるので、あわせて検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別に記録している。その記録と職員間の話し合いを通じて介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族のその時々状況に応じて、必要とされるニーズを把握し、個々に応じた柔軟な支援やサービスが出来るように努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 職員・運営推進委員・地域の方たち等に意見を求め、地域資源を把握し、その活用に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を聞いて、納得できる医療を受 けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれの希望するかかりつけ医への受診を支 援している。受診には管理者やユニット長が付き添 い、医療機関との連携を深めるよう配慮している。利 用者の医療面を、かかりつけ医とホームの協力医療機 関とが連携して見守るシステムを整えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気づき等必要と思われる情報を提供し、適 切な看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 必要に応じて物品を準備したり、情報を提供するなど の対応をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師と相談しながら方針を決 めている。	
			(外部評価) ホームの方針として、医療的ケアは行わないこと、口 から栄養を摂ることが基本であること、点滴は病院で 行うこと等を規定しており、本人や家族とは利用申し 込みの段階から話し合いをもっている。医療的な判断 は協力医療機関の指示を仰ぎ、介護面ではできる限り の生活支援を行うことを職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修参加・報告を行っている。また、時々職員間で緊急事態時の対応を話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を行うとともに、運営推進会議等を通して地域との協力体制を築いている。  (外部評価) 避難訓練を定期的に行い、運営推進会議でも参加者と共に消防署の指導を受けている。消防署からはホームが平屋で避難経路が多くあることを評価されている。ホームの地域貢献の一つとして、地震等の非常災害時には近隣の高齢者の緊急避難場所となることも検討しており、地域との相互協力体制に積極的に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人が傷つかないよう言葉に注意しながら対応に努めている。充分とは言えないかもしれないが、一人一人の人格を尊重した対応を心がけている。  (外部評価) 職員は、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ちながら利用者に接している。職員全員が地元の方言で話すことで安心するためか、饒舌な利用者が多い。一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した細やかな配慮のある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意思を聞き、自己決定してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って行動してもらい、それに合わせて介助を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できるだけそう出来るように物品を購入したり、カットや毛染め・パーマ等できるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの食事を聞いたり、一緒に準備・片付けをしている。	
			(外部評価) 食事は、利用者の「いただきます」の声かけで始まり、全員が食べ終えた時に「ごちそうさま」で終わる。大きなテーブルを並べ、全員の顔を見ながらの食事となっている。食事中も話が途切れることがなく、終始和やかである。利用者の状態に合わせた役割を依頼し、協力しながら準備や片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量や水分量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後全員の口腔ケアを行い、それをチェックしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のチェック表を使用し、個人のペースに合わせたトイレット紙の誘導や声かけを心がけ、自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 本人の状態や能力を見極め、排泄の自立支援を行うことをホーム開設時からの目標の一つとしている。支援方法には紆余曲折があったと管理者等は笑うが、おむつ使用者が少ないことにも経験の積み重ねが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳や繊維質の食品の使用を心がけたりはしているが、個々に応じた予防までにはいたっていない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できるだけ個々に応じた入浴の支援を心がけてはいるが、職員が一人になる夜間の入浴はしていない。	
			(外部評価) 入浴は、時間・回数ともに利用者の希望に添って支援しており、毎日入ってもらうことも可能な体制としている。入浴を拒否する利用者にも、時間帯を見計らったり、気分のいいときに声かけを行う等の工夫により、清潔維持と楽しい入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に応じて休息をとってもらったり、夜間は個々の好きな時間に休めるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋にて確認している。気になる症状があれば病院に指示を仰ぐなどの対応をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが好きなこと、または得意なことをして気分転換がはかれるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿って外出できるように、家族と相談するなどして支援している。	
			(外部評価) ホーム周辺の道路は平坦で車の往来が少なく、散歩するには最適である。また、広めの玄関口では外気浴が気軽にでき、ホーム前のアパートに住む子どもたちとの会話も弾んでいる。リフト付きワゴン車をホームで用意しており、買い物等の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や力に応じたお金の所持や使用を支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて電話をかけたり、手紙を出せるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や飾りを置いたり、状況に応じて簾を使用している。快適で季節感のある環境を提供できるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 平屋のホームで、全体的にゆったりとした設えになっている。周りにも建物が少ないため、リビングの大きな窓からは朝日や夕陽を眺めることができる。冬場は畳のコーナーにコタツを出す等、季節感も大切にしている。共用空間には大きなソファもあり、利用者それぞれがお気に入りの場所で日中を過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 人間関係等に配慮しながら、快適に過ごせるような居場所づくりの工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人が必要なものやなじみのものなど、本人や家族と相談し、置くようにしている。本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、写真や絵等も飾られている。冬場には雪が積もる地域であることから床暖房も設えており、利用者には居心地の良い部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 家族の協力を得ながら、安全な環境づくりを工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	H21年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位でしたい事をしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で静かでゆったりと過ごせる。ホームの前には、アパートがあり、子供達も多く、遊びに来たり、行事参加をしてくれ触れ合う機会があり喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後6年を経過しているが、ホーム内に笑い声が絶えないことが利用者の健康維持に良い影響を与えているのか、利用者の介護度の推移はゆっくりしている。利用者の半数が開設時から職員と共に生活しており、職員が利用者の生活を上手く支えるよう努め、顔色や目配りでもその状態が双方に伝わるような雰囲気がある。利用者と職員の良好な関係は新しい利用者にも安心感を与えており、最近入居した利用者もすでに馴染んでホームの一員としてゆっくりとした生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)  
氏名 土居ひとみ

評価完了日 H21 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念『笑顔ある生活』を職員全員で話し合っ て決めた。また、具体的にどうすれば良いのかという指針を皆が見えるところに掲げて職員間で気を付け、反省しながら理念に近づけるように日々取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者がホームの生活だけでなく地域の中 でも笑顔で生活することが重要と考え、開 設当初から、理念の一つに「笑顔ある生 活」を掲げており、地域との交流は年々 深まっている。管理者と職員は理念を共 有して実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし 続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の方への挨拶や声かけを行って いる。兎を見に来るなどして子供達 との交流もある。また、輪抜け・お 祭り・文化祭等の行事に参加したり、 保育園からの来訪も定期的に受けて いる。</p> <p>(外部評価) ホームの開設以降、近隣住民には欠 かさず挨拶を行っており、地域の行 事にはお誘いがある。また、同法人 が経営している道路を挟んだアパ ートの住民とは、ホームを気軽に訪 ねてもらえる関係もできている。た だ、現在のところ職員の主導的な関 わりが大きく、利用者自身が地域 住民の一員としてのつきあいができ ていないとまでは言えない。</p>	利用者が地域住民として近隣者との つながりをさらに深めるためには、 全職員で利用者と地域の双方に目 を向け、普段着でのつきあいとは 何かを検討することが必要である ため、それを支援する時間や手間 を十分確保するためにも管理者を 専任でおくことについて検討を 期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて いる認知症の人の理解や支援の 方法を、地域の人々に向けて活 かしている	<p>(自己評価) 地域との交流やボランティアの 受け入れなどを通じ、認知症の 人の理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 概ね2ヶ月に一回の運営推進会議を実施している。利 用者の方たちと一緒に行事に参加してもらったり、外 部評価や、その後の取組についての報告も行ってい る。運営推進会議で得た意見をその後の活動の参考に している。	
			(外部評価) 地域に開かれたホームになるため、運営推進会議を きっかけづくりの場として丁寧に運営している。参加 する委員の都合や議事内容を管理者やユニット長が十 分に吟味し、有意義な時間となるように努力している が、形式に囚われ過ぎている感がある。	運営推進会議の中にお茶会の時間を導入したり、利用 者との交流を企画するなど、少しずつ肩の力が抜けて きている。会議に参加する委員とも良好な関係が構築 できていることから、今後はホームでの催し物の準備 の相談や、委員と一緒に協働する議題、利用者と共に 楽しむ時間等も企画することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 年2回相談員の方に来訪してもらっている。運営推進 会議や電話等を通じて、実情の報告を行い、意見を 得るなどして協力関係を築けるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者には業務報告や相談等を行っており、管理者 も勤務が長いと、行政関係者との関わりも深い。利用 者へのケアの質の向上のためには、ホーム同士の連 携・協力関係を構築することが必要であると考えてい る。	近隣のホームとは、運営推進会議に出席を求めるな ど、良好な協力関係が築かれている。これをさらに堅 固にしたり、他のホームと連携を深めるため、行政等 にまとめ役として積極的に関わってもらいたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で話し合いながら、身体拘束をしないよう取り 組んでいる。玄関には開いたら音が出るような工夫を している。	
			(外部評価) 身体拘束の行為について、介護保険に示されている内 容の確認を全職員で行い、その精神的影響についても 共有している。利用者が不穏状況になっても、職員が 寄り添うことで落ち着きを取り戻すケアに取り組んで いる。玄関以外にも勝手口、リビングの掃出窓など、 外出できる場所が沢山あるが、夜間以外はどこも施錠 されていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、またその報告を職員間で行うことによって虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。入浴時には外見の観察を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、またその報告を職員間で行うことによって権利擁護に関する制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解や納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に苦情相談の窓口を明記し、口頭での説明も行っている。意見を受けた場合には速やかな対応に努めている。面会に来られた時に、意見が言いやすい雰囲気づくりをし、近況報告と共に意見を求めている。  (外部評価) 意見箱の設置や家族会の開催等、来訪時以外でも家族が意見を出しやすいよう工夫している。職員は、家族が気軽に意見を話しやすい雰囲気となるよう、明るい対応を心がけている。家族との付き合いも長くなっているため、意見等が余り出ない状態にあり、さらに家族からの意見を聞き取るために新たな取り組みが必要な時期に来ている。	家族にも行事の時などに役割をお願いして来訪時とは異なる時間を確保し、その際の何気ない話の中から意見等を引き出すような工夫を期待したい。また、職員が聞き得た情報を家族と共有するための話し合い等を行うことにより、本人への理解と家族との連携を深める工夫等についても期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 会議で意見を聞いたり、時間があいた時に個別で聞いたりしている。  (外部評価) 管理者やユニット長もシフトに入っているため、職員とは業務を通して話し合う時間が長く、会議以外でも意見や提案を話し合う場がある。管理者と職員が利用者のケアについて共に考えるという関係が構築できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の状況の変化により条件の整備をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加を推進し、援助している。また、資格の取得を推進することによってトレーニングの機会を増やしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や他施設での研修・行事に参加して同業者との交流を図っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) よく関わりを持ち、色々な話を聞き、本人がなんでも話をしやすい状況をつくり、安心して過ごしてもらえよう、信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用が必要になった状況を把握し、家族の要望に応えられるように努めている。また、要望等を遠慮なく伝えてもらえるような信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援ができるよう本人・家族とよく話をして対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれに『出来ること』をしてもらう。料理の味付けや作り方など教えてもらっている。それに対する感謝を伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 現状を報告し、家族の意見を聞き入れ、支援に生かしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービス利用以前の状況を理解し、地域の行事の参加や老人会のお誘いをしてもらったり、面会に来てもらったりしている。  (外部評価) 近隣に居住していた利用者が多いため、家族だけでなく近所の友人・知人の来訪も多い。職員も地元出身者が多いため、利用者との共通の話題や昔話に花が咲いている。在宅からホームへと生活の場が変わっても、利用者の関係継続を自然に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、より良い関わり合いが保てるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院時は時々面会に行き、契約終了後も相談等があれば、それに応じている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、したい事ができるよう自由に過ごしてもらえよう努めている。  (外部評価) 職員は利用者との日常の会話から思いを汲み取るため、特に一対一で行う入浴ケアや散歩時等に積極的に会話している。また、その情報を日々のケアに生かすために職員間で検討している。しかし、聞き得た情報を記録化する取り組みが十分とは言えず、また職員間での話し合いもシステム化されていないため、全職員が共有しているとまでは言えない。	利用者の生活歴やちょっとした嗜好などはホームの貴重な財産であり、利用者へのサービスの質の向上に不可欠なものであるため、書き足して蓄積していくことができるよう、統一の記録用紙を整え、記録した情報が何年経っても確認できるよう工夫することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族に聞き取りを行うことでこれまでの生活歴等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル確認を毎日行っている。職員間で毎日報告をし、現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画に関して、本人・家族・必要な関係者に意見を求めている。一ヶ月に一回職員間で話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 介護計画の見直し・継続については毎月の会議で話し合っている。利用者それぞれに担当職員を決め、ケア会議で利用者の介護目標の振り返りを行っている。モニタリングには介護記録を用いているが、記録の内容が必ずしも介護計画に繋がる記述となっていないため、担当者の主観がやや強くなる傾向がある。	介護記録は、職員間で介護目標を絶えず意識するために、介護計画を意識した記載となるよう検討することが望まれる。また、介護目標を数値化することで、利用者や職員が達成感を感じることができ、モチベーションの維持にも役立つと思われるので、あわせて検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践を介護記録に記入している。その記録と職員間の話し合いを通じて介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の希望に出来るだけ対応していくようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員・運営推進委員・地域の方たち等に意見を求め、地域資源を把握し、その活用に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を聞きながら、納得できる医療 機関で受診している。	
			(外部評価) 利用者それぞれの希望するかかりつけ医への受診を支 援している。受診には管理者やユニット長が付き添 い、医療機関との連携を深めるよう配慮している。利 用者の医療面を、かかりつけ医とホームの協力医療機 関とが連携して見守るシステムを整えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気づき等必要と思われる情報を提供し、適 切な看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 必要に応じて物品を準備したり、情報を提供するなど の対応をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師と相談しながら方針を決 めている。	
			(外部評価) ホームの方針として、医療的ケアは行わないこと、口 から栄養を摂ることが基本であること、点滴は病院で 行うこと等を規定しており、本人や家族とは利用申し 込みの段階から話し合いをもっている。医療的な判断 は協力医療機関の指示を仰ぎ、介護面ではできる限り の生活支援を行うことを職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修参加・報告を行っている。また、時々職員間で緊急時対応についての確認をしあっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の人と避難訓練を行うとともに、運営推進会議等を通して地域との協力体制を築いている。  (外部評価) 避難訓練を定期的に行い、運営推進会議でも参加者と共に消防署の指導を受けている。消防署からはホームが平屋で避難経路が多くあることを評価されている。ホームの地域貢献の一つとして、地震等の非常災害時には近隣の高齢者の緊急避難場所となることも検討しており、地域との相互協力体制に積極的に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人が傷つかないよう言葉に注意しながら、対応に努めている。  (外部評価) 職員は、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ちながら利用者に接している。職員全員が地元の方で話すことで安心するためか、饒舌な利用者が多い。一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した細やかな配慮のある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意思が言いやすいような言葉掛けや雰囲気づくりなどするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って行動してもらい、それに合わせて介助を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が着たい物を選択してもらっている。カットや毛染め・パーマ等できるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞きメニューに取り入れたり、その人の出来ることを手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 食事は、利用者の「いただきます」の声かけで始まり、全員が食べ終えた時に「ごちそうさま」で終わる。大きなテーブルを並べ、全員の顔を見ながらの食事となっている。食事中も話が途切れることがなく、終始和やかである。利用者の状態に合わせた役割を依頼し、協力しながら準備や片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量や水分量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後全員の口腔ケアを行い、それをチェックしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のチェック表を使用し、個人にあわせたトイレ誘導・声掛けを行い支援している。	
			(外部評価) 本人の状態や能力を見極め、排泄の自立支援を行うことをホーム開設時からの目標の一つとしている。支援方法には紆余曲折があったと管理者等は笑うが、おむつ使用者が少ないことにも経験の積み重ねが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳や繊維質の食品の使用を心がけたりはしているが、個々に応じた予防までにはいたっていない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようにし、できるだけ個々に応じた入浴の支援を心がけてはいるが、職員が一人になる夜間の入浴はしていない。	
			(外部評価) 入浴は、時間・回数ともに利用者の希望に添って支援しており、毎日入ってもらうことも可能な体制としている。入浴を拒否する利用者にも、時間帯を見計らったり、気分のいいときに声かけを行う等の工夫により、清潔維持と楽しい入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に応じて休息をとってもらったり、夜間は個々の好きな時間に休めるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋にて確認している。気になる症状があれば病院に指示を仰ぐなどの対応をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが好きなこと、または得意なことをして気分転換がはかれるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物に行く機会を多くしている。場所によっては家族と相談し外出できるよう支援している。	
			(外部評価) ホーム周辺の道路は平坦で車の往来が少なく、散歩するには最適である。また、広めの玄関口では外気浴が気軽にでき、ホーム前のアパートに住む子どもたちとの会話も弾んでいる。リフト付きワゴン車をホームで用意しており、買い物等の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、お金を所持したり、買い物などで本人に支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて電話をかけたたり、手紙を書いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や飾りを置いたり、状況に応じすだれを使用したりしている。	
			(外部評価) 平屋のホームで、全体的にゆったりとした設えになっている。周りにも建物が少ないため、リビングの大きな窓からは朝日や夕陽を眺めることができる。冬場は畳のコーナーにコタツを出す等、季節感も大切にしている。共用空間には大きなソファもあり、利用者それぞれがお気に入りの場所で日中を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファで過ごしたり、たたみの所で過ごしたり自由にできるようにしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が必要な物や馴染みの物など家族と相談し置くようにしている。	
			(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、写真や絵等も飾られている。冬場には雪が積もる地域であることから床暖房も設えており、利用者には居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人にあわせ洗濯物が干しやすいような物にし出来ることを活かせるようにしている。	